

【報道関係各位】

三谷産業株式会社
清水建設株式会社
2018年4月7日

新たなクラウドサービスを共同で事業化

～AI がサーバ室の温度環境を最適管理、最大で 25%の省エネを実現～

三谷産業株式会社（本社：石川県金沢市／代表取締役社長：三谷 忠照、以下 三谷産業）の情報システム部門と清水建設株式会社（本社：東京都中央区／代表取締役社長：井上 和幸）は共同で、両社がデータセンターの建設・運営で培ってきたノウハウを活用し、サーバ室の温度環境をクラウド上の AI でリアルタイムに省エネ制御するサービス「SMT (Smart Management Technology) クラウド」事業を展開します。同時に、SMT クラウドの基盤を活用して既存サーバ室の空調性能を評価し、空調機器の省エネを図るベストチューニングや空調方式の変更、SMT クラウド導入のための機器更新を提案するコミショニング・サービスを開始します。初年度は、三谷産業が本社を置く北陸地方を中心に営業展開し、2019年度から全国展開を図ります。

■ 「SMT クラウド」共同事業化の背景

日本国内には、中大規模の事業用データセンターだけでも約 600 棟、小規模の電算センターまで含めると実に 8 万棟以上の関連施設があるという調査結果が報告されています。こうした施設では、サーバを安定稼働させるために室内の温度管理を徹底することが求められる一方、サーバ室の膨大な空調費用の圧縮、つまり空調機器の省エネ制御が施設管理者の大きな課題になっています。SMT クラウドと、それを利用したコミショニング・サービスはこうした課題のソリューションです。

■ 「SMT クラウド」の概要と期待される効果

SMT クラウドは、インターネットを介してクラウド上で稼働する AI がリアルタイムにサーバ室の温度環境を省エネ制御するサービスです。具体的には、サーバ室に設置する IoT センサ類が温度環境データを収集、AI は当該データを蓄積・学習して空調機器の運転状況とサーバ室各所の温度との関係をモデル化し、最適な温度環境を必要最小限のエネルギーで実現する制御情報を空調機器に送信します。同時にサーバ室内の温度環境を見える化します。なお、SMT クラウドが利用するネットワークは、施設における既存ネットワークとは独立したネットワークとなります。初期費用を除く利用料は概ね、100 ラック規模で 120 万円/年となります。

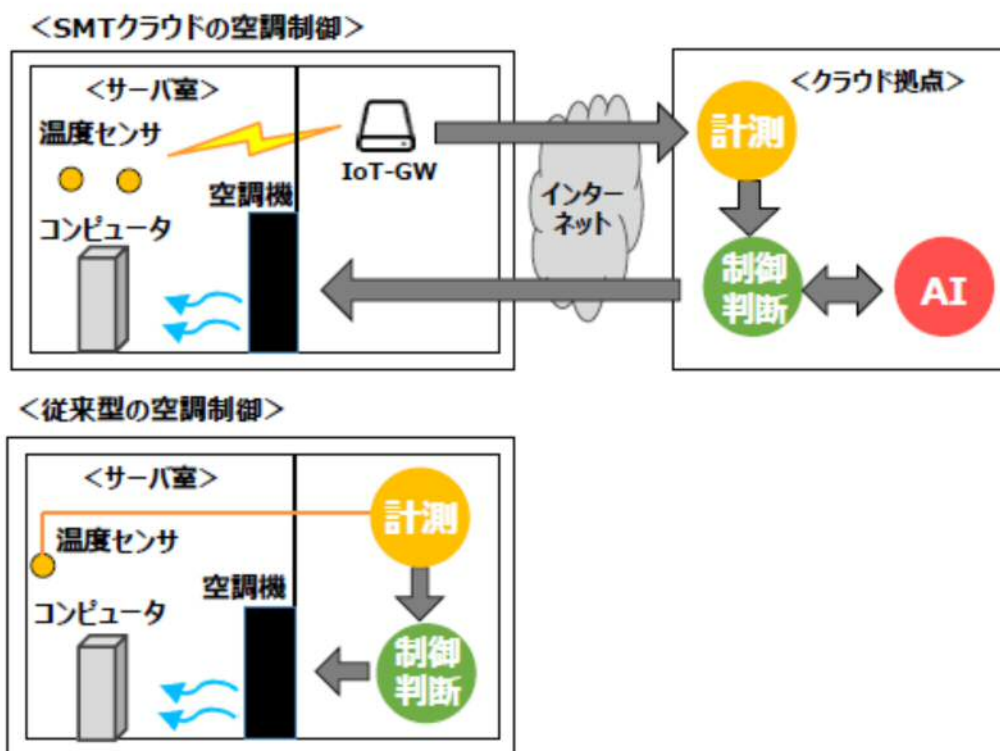
空調機器の性能によって異なりますが、SMT クラウドにより最大 25%程度の省エネが期待されます。新築の場合、施設ごとに空調機器の制御装置を備える必要がなくなるため初期コストを削減できます。また、空調制御機能の大部分をクラウド側に集約するので、サーバ室の運用変更や空調機器更新に伴うシステム調整にも速やかに対応できます。さらには、温度環境を見える化したことで、施設管理者による温度計測等の一連の管理業務を大幅に削減できます。なお、クラウドを介さず、AI をカスタマイズして当該施設内に直接 AI 装置を提供することも可能です。

一方、コミッション・サービスはサーバ室の省エネを図るコンサルティング的な業務です。最初に両社の技術者が当該サーバ室の空調機器の性能を分析。結果を踏まえて、機器のベストチューニングや空調方式の変更、クラウド制御といった省エネ提案を行います。費用は、サービスのベースとなる空調機器の性能分析で80万円程度（100ラック規模）、提案費用は別途となります。

両社は今後、2020年度末までに、少なくとも50件程度のデータセンターに対してコミッション・サービスを実施するとともに、SMTクラウド事業の拡大を目指し、監視装置やセキュリティ管理のクラウド化にも取り組む計画です。

<参考>

■SMTクラウドのサービス概要図



<本件に関するお問い合わせ先>

三谷産業株式会社広報事務局（共同ピーアール）
TEL：03-3571-5258